



RFJ 現地視察報告会

アマゾンジャングルのはちみつのお話



一斉伐採後燃える森



～広島からアマゾンを考える2011 シリーズ No.13

とき 2011年9月10日(土)午後1時00分～3時00分

開場：午後0時30分～ アマゾン支援コーヒー試飲サービス

ところ 広島市西区民文化センター 3F 大広間

広島市西区横川新町6-1 TEL：082-234-1960 (JR横川駅から徒歩約3分)

講演 (NPO法人) 熱帯森林保護団体代表 南 研子氏

事務局長 白石 絢子氏

入場料 一般 500円 (学生無料)

主催：(NPO法人) 熱帯森林保護団体ひろしま

世界中の熱帯雨林は今も減少し続け、ブラジルアマゾンの

国立公園先住民保護区では、自然発火が多発…

世界の酸素の4分の1を供給しているといわれるアマゾンの森は、CO₂を保持する働きだけでも1ha当たり750~1万ドルになると注目を浴びています。(オランダユトレヒト大学、WWF 試算)

ところが、牧場や大豆畑などへの転換が急速に進み、この20年間で少なくとも日本の総面積より広い50万km²が破壊されました。森林の焼失によるCO₂排出は世界全体の約2割を占めています。(2009年6月22日付中国新聞)

* * * * *

近年の急速な開発により、先住民の営みも変化せざるを得ない状況に追い込まれました。以前は貨幣制度を導入することなく、主に狩猟採集を行っていましたが、現在、経済的自立を促進しなければならなくなっています。

自然環境を崩すことなく、森の素材を用い収入を得る事業を模索する中、この地域は珍しい植物群もあり、多種多様な蜂が生息し、養蜂に適していることに着目し、養蜂事業に辿り着き2010年より支援を開始しました。

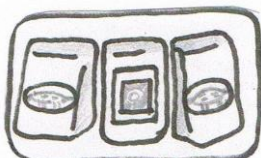
シグー国立公園内に居住する5部族(カラパロ、クイクロ、ナフクアー、アウエチ、メイナク)8集落が受益者であり、約2,500を対象者とする当事業は、蜂の習性を利用して各部族の集落において養蜂技術を確立し、さらに植物との関連をより明解にすることで、総合的にそこに暮らす地域住民(先住民)の生活持続支援及び支援対象地周辺の自然環境保全につなげていくことが目的です。

養蜂の専門家であり、インディオの支援を心から願うシドニー・ブエノ氏の協力のもと、開始に至りました。この事業が成功したならば、自然環境を壊すことなく、良質な蜂蜜の生産をすることで地域住民の安定した経済的自立の道を確保できます。

養蜂事業の確立により安定的な収入を確保することで、さらに熱帯雨林の現状把握による保全活動へつなげていくなど、次なる段階へと展開できる可能性を含んでいます。

(団体ホームページより:表の写真参照)

12:30~13:00 試飲サービスあります!
アマゾン支援コーヒーである、ブラジルの有機栽培
「イヴァンさんのコーヒー」ご紹介!



南研子氏の2冊目の著書
(2006年11月(株)ほんの木)

南 研子氏 プロフィール

NPO 法人 熱帯森林保護団体 代表

1989年イギリスの歌手ステイニングが「アマゾンを守ろう」というワールドツアーを実施し来日した際、同行していたアマゾンの先住民カヤポ族リーダー、ラオーニと出会い、それを機に同年5月に当団体を設立。その後20年間今年までに25回現地を訪れ、毎年数か月アマゾンのジャングルで先住民とともに暮らし、支援活動を続けている。滞在日数は2000日以上。カヤポ族との結びつきは深く、2007年には広島市の「アマゾンインディオ文化展」に参加するため長老ラオーニ氏が二度目の来日を果たした。



マトグロソ州の州都クイアバ市の消防隊と
白石氏(中央)と南氏(前列右から2人目)

白石絢子氏 プロフィール

NPO 法人 熱帯森林保護団体事務局長

東京生まれ。2005年筑波大学大学院環境学科研究科修了。同年から毎年南氏と共にアマゾンでの視察・支援に同行。09年には、ペロモンチダム建設反対運動を単独で視察。本年は、はちみつプロジェクトを中心となって担当。HPのスタッフブログでは、アートな写真が見られる。

Rainforest Foundation Japan のホームページ

<http://www.rainforestjap.com/>

広島支部: <http://hiroshima.rainforestjap.com/>